カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

シノドス第16回通常総会・第1会期
ともに歩む教会のため
10月にバチカンで開催

世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会・第1会期が、この10月4日から29日までバチカンで開催される。

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマにした今回のシノドスは、2021年10月に開会し、教区レベルでの分かち合いと意見交換、大陸レベルでの総会と作業、バチカンでの総会議（2会期）という三つの段階に分かれ、これらが一つの大きな歩みとして行われている。第2会期は来年10月。

バチカンが公表した総会の参加者名簿によると、日本からは菊地功大司教（司教協議会日本代表、東京教区大司教）を含む3人が参加する予定。日本の教会は、総会のため、参加する方々のために祈るよう呼びかけている。

また現在、カトリック中央協議会のウェブサイトに第1会期の「討議要綱」が公開されている。この文書は66ページに及ぶ長いものだが、「シノドスの歩みをともに継続していくために、教区、小教区などの小グループによる分かち合いにご活用ください」として紹介されている。

「これらは2023年10月、バチカンでのシノドス総会の出席者が使用する文書ですが、事前に、全世界にも公開されています。その目的が、すべての信者が『10月の総会の結果を待つ間、地方や地域レベルでのシノドス的な動きへ参加するよう促』され、『これによって、地方教会が祈り、考察し、行動し、自らの貢献を果たすよう求められている』（10項）から、です」（中央協議会ウェブサイトから）

シノドスの歩みのために、引き続き全世界の教会とともに祈りましょう。

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇
教会が、傾聴と対話を大切にする姿勢を、聖霊の導きによって、世界の隅々にまで行きわたらせることができるように

・日本
シノドスの歩みに合わせ、社会に福音を宣べ伝える使命を思い起こさせてくださるように

駐日教皇大使の退任

教皇フランシスコは、9月1日付で、ビテット名義大司教、レオ・ボッカルディ大司教の駐日教皇大使からの退任願いを承認された。ボッカルディ大司教の退任は、70歳になった時点で現職からの引退を前倒しできるという教皇庁の外交官のための規則を適用したもの。ボッカルディ師は今年4月15日に70歳の誕生日を迎えていた。（バチカン・ニュース）

大阪高松大司教区設立式と着座式

大阪大司教区は8月22日、大阪高松大司教区設立式とトマス・アクィナス前田万葉新大司教着座式の日程を発表した。式は、10月9日（月）13時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂（玉造教会）で行われる。

〝キリストに似た者として生きる〟
大村殉教祭 4年ぶりに開催

9月3日（日）13時30分からシーハットおおむら・さくらホールにおいて、長崎教区主催の第45回大村殉教祭が開催されました。

4年ぶりの開催ということで、放虎原殉教地での「みことばの祭儀」や記念ミサ前の講演会は行わず、まずは記念ミサの成功に専念しようと関係者が準備を進めてきました。当日は、大村市を中心に県内から多くの信者が参加し、大村の殉教者に心をはせ、祈りをささげました。

記念ミサは、司式を予定していた司教総代理の山脇守神父様の急な都合により、長崎北地区長の川原拓也神父様が代理で司式を執り行いました。説教は、山脇神父様が準備なさっていたものを川原神父様が代読されました。

説教の中で、殉教者とは

「キリストを証しする者」という意味で使われていますが、ある人は「キリストに似た者」と解釈しました。それは「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行う者になること」です。殉教者たちは、キリストに似た者になろうとした人たちです。かつて日本では、仕返しをすることに美徳を感じる風習がありましたが、殉教者たちはどんなことがあっても最後までキリストに似た者として生きました。私たちも日々の生活の中で、「やられたら、やりかえす」のではなく、小さな平和を保つために、殉教者の信仰に学びましょう、と呼びかけました。

殉教者の生き方に学び、互いに愛し合い、ゆるし合う大切さを改めて学んだ殉教記念ミサとなりました。

（水主町教会 広報）

故ゼノン・イエール神父様を偲んで
名誉大司教　髙見 三明

「私はイエル（言える）です」と冗談めいて自己紹介をしておられたイエール神父様は、福岡で司祭養成のために働かれた、延べ11名のカナダ人聖スルピス会司祭の最後の方でした。去る8月12日19時23分（日本時間13日8時23分）に99歳の生涯を閉じられました。

イエール神父様は、4名の姉妹と10名の兄弟のうち次男として、カナダ・モントリオールの隣の教区セン・レミで、1924年7月24日にお生まれになりました。長男が30代で亡くなったため、実際上早くから長男としての役割を果たされました。

1949年6月12日司祭に叙階され、その後ローマで聖書学修士号を取得され、聖地を巡るなどした後、53年11月7日に福岡の地に赴任しました。東京で2年間の日本語習得の後、福岡に戻り、大神学校の会計とラテン語教授をされたJ・ツルデル神父様の62年に次いで、2番目に長い50年半の間、聖書の教授、霊的指導、副院長、典礼、会計などを務められました。長崎や福岡などで修道女や信徒のための聖書講座にも協力されました。特筆すべき業績は、『聖書 新共同訳』の固有名詞4099の日本語表記の確定のために18年間綿密で忍耐強い作業をされ、『聖書思想事典』（三省堂）の翻訳のため8年間働かれ、また『聖書入門』の翻訳もされたことです。『聖書 新共同訳』は、全聖書と新約聖書を合わせて、発行以来35年間でほぼ1400万部売れました。

2022年10月カナダ訪問時のイエール師㊧

葬儀ミサ入堂前、棺のそばで

葬儀ミサは、2週間後の8月26日（土）11時から旧モントリオール大神学校聖堂で行われました。イエール神父様出身のセン・ジャン・ドゥ・ロンゴイユ教区のリヨネル・ジャンドロン名誉司教（スルピス会）主司式、現在の同教区C・アムラン司教、セン・ボニファスE・グーレ名誉大司教（スルピス会）、私の他もう1人の名誉司教、10名余の司祭、70名ほどの信徒が参加する中、行われました。入堂前に棺の前で祈りがあり、ミサの前には、50分にも及ぶ、スルピス会カナダ管区長のあいさつの代読、私の話、故人の末弟のあいさつがありました。ミサと告別式で1時間20分かかりましたが、とても厳粛ですばらしい葬式でした。告別式の後、神学校の中央玄関まで棺に同伴し、別れを告げました。

私は、故人の遺言に従って、ご遺灰を福岡の神学校に安置すべく持ってまいりました。神父様は、亡くなってからも福岡の地にあって日本の教会の歩みを見守り、祈りをもって共にしたいと望まれたのです。カリスも女子カルメル会福岡修道院に寄贈されました。今年の11月21日の神学院感謝祭のミサはイエール神父様の追悼のためにささげられます。

そのおおらかで穏やかなお人柄と聖書の知識と神のことばに対する熱意ゆえに、神学生や同窓司祭たちからも慕われています。ミサには多くの方々が参集してくださることでしょう。イエール神父様に対する感謝は尽きませんが、その教えを受けた私たちがその遺志を引き継いでいくことができるよう願ってやみません。

主よ、永遠の復活の喜びをイエール神父様に与えてください。

第14回日本カトリック障害者連絡協議会
長崎全国大会のために祈りましょう

テーマ　『ともに…つんのうで！』
日　程　2023年10月14日（土）・15日（日）
会　場　長崎純心大学（長崎市三ツ山町）

主催：日本カトリック障害者連絡協議会、カ障連長崎全国大会実行委員会
協力：カトリック長崎大司教区、カトリック中央協議会カリタスジャパン

参加される皆様は以下の点にご留意ください

1. 保険証、お薬手帳を持参してください。
2. 日頃服用している薬は忘れずに持参し、必ず服用してください。
3. かかとが低い靴、履きなれた靴で参加し、日頃使用している杖は持参してください。
4. 事故発生や、気分が悪くなった時は、本部、救護所、救護班のスタッフにお知らせください。
5. 救護所や救護班の場所をご確認ください。
6. お名前の裏面に、年齢、連絡先、治療中の病気・アレルギーの有無など記入してください。
7. 感染症の発生が起こる可能性があります。他の人への感染を広げないため、可能な限り、感染予防対策をとって参加されることをお勧めいたします。なお、当日発熱、下痢、嘔吐などの症状がある方は参加をお控えください。咳やくしゃみなどの症状がある方は、咳エチケットを守り、マスク着用をお願いいたします。
8. 大会終了後2週間以内に麻疹（はしか）、風疹（3日はしか）、水痘（水ぼうそう）を発症した場合は、大会に参加したことを必ず医師に伝えてください。

寄付などの送金先は以下にお願いいたします

＊ゆうちょ銀行
口座名義　カトリック長崎大司教区
記号　17660　番号　8450871
＊他、金融機関からお振込いただく場合
店名　768　普通口座　0845087

実行委員会事務局（電話）070-8569-0522

ほしかげ

浦上の信徒たちが『旅』から帰還して今年は150周年。一連の記念行事で若者たちが活躍している姿を見て、先細りの話が多くなりがちな最近の教会にも、希望は必ずあると感じた。5月28日、大波止からのロザリオ行列に続くミサの終わりに、流配先22カ所を表す代表者たちは各々、若い世代の代表者たちに「信仰のバトン」を受け渡した。裏方さんが人集めに苦労する姿も目にしたが、若者たちは呼びかけにしっかり応えてくれた。▲7月23日には、5つの高校の演劇部員たちによる「岩永マキ物語」が上演された。信仰に裏打ちされたマキさんの芯の強い生きざまを事前に学び熱演したのは、カトリック信者に限らない高校生たちであり、ここにも大きな希望を感じた。同じ浦上には原爆の傷もある。4年ぶりに計画されたたいまつ行列は、今回台風のため中止。しかし実施されていたらきっと、「被爆マリア」像は若者たちが担いでくれたに違いない。▲「Z世代」と呼ばれる被爆体験のないある若者は、先人の被爆体験を語り継ぐ活動に励んでいる。彼は報道番組の中で、「聞いた被爆体験をいかに『自分ごと』に変えられるかが大事」と語っていた。▲教会にもさまざまな課題がある。今月ローマではいよいよシノドス第16回通常総会が開催される。各自「自分ごと」として教会の課題を受けとめ、希望をもってともに歩み出そう。（健）

教会の心である「カリタス」を生きる

愛宕教会 主任司祭　瀬戸 高志
（カリタスジャパン秘書）

カリタスジャパン（担当司教・成井大介司教）は、教皇庁に本部を有する国際カリタス（総裁・菊地 功大司教）の一員。「日本のカトリック教会として、四旬節『愛の献金』その他の救援金などの募金活動、国内外への援助活動、人々が人間らしい生き方を獲得するための啓発活動を行います」（公式ウェブサイトから抜粋）。これらの活動は、この10月に開催されるシノドス第16回通常総会のテーマと同じく、「ともに歩む教会」を実践しているものといえるだろう。カリタスジャパンについて理解を深めるため、同秘書の瀬戸高志師（レデンプトール会）に執筆いただいた。

カリタスジャパンが支援する援助活動で出会った人々は、笑顔と強い意志を持っていました。茶畑で一日中働いている人、教育の機会が極端に少ない階層の人、水を得るのに何キロも歩く子どもなど、困難や貧困の原因は、その人々だけのものではありませんが、たくましく生きています。自分たちに困難があっても周りの人や次世代がより良い生活が送れるように願っている姿に、人間の尊厳や美しさを見いだす体験となり、今でも心に深く刻まれています。

極めて良かった「人間」

聖書は、神がお造りになったものについての物語から始まります。人間については、神の似姿であり、極めて良かったと述べています（創世記1～2章）。その人間は、神に逆らい、楽園から追放されます（創世記3章）。そこから始まる人類の旅に、わたしたちは主イエス・キリストとの出会いを通して加わります。そして、すべてが新たにされることを待ち望みながら、新しい天と地をめざして（黙示録21～22章）、わたしたちはともに歩みます。聖書は、このわたしたちの救いへの旅、極めて良かった人間を取り戻す旅の手引き書になっています。

教会の責務としての愛のわざ

教皇ベネディクト十六世は、回勅『神は愛』（25）において、教会の本質的な務めについて、それぞれが互いの前提、互いに切り離すことができないものとして次の三つを指摘します。

① 神のことばを告げ知らせること
（宣教〔ケーリュグマ〕とあかし〔マルテュリア〕）

② 秘跡を祝うこと
（典礼〔レイトゥールギア〕）

③ 愛の奉仕を行うこと
（奉仕〔ディアコニア〕）

愛のわざ（カリタス）を行う共同体としての教会の愛の実践は、誰かに任せることのできる福祉活動の一つではありません。それは教会を超える領域にまで及びます。愛を伝え、愛を祝い、互いに愛し合うという教会の使命は、わたしたちの信仰の行為そのものでもあります。わたしたち一人ひとりが愛する者になって、教会の使命を実現していきます。

全教会と人類との交わりの中で

教皇フランシスコは、回勅『ラウダート・シ』を通して問いかけます。「どのような世界を残そうとするのでしょうか」（160）緊急な地球規模の危機に対して、地球と貧しい人々の叫びを聞くことを呼びかけます。それは国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」とも関連しています。そして、教会のあり方をみんなで検討している「第16回世界代表司教会議（シノドス）通常総会」にもつながります。聞き合うことでわたしたちは互いに出会います。もっと知ろうとして交わりが生まれます。みんなで愛のわざに参加することで、信仰者の使命を果たし、教会の宣教の担い手となります。

カリタスジャパンと教会

カリタスジャパンは、日本のカトリック教会が行う愛のわざに奉仕します。教区の枠を超えて、皆様の祈りや献金・募金、さまざまな愛の活動が、日本の教会の愛のわざとなります。また、それらは、国際カリタスの一員として他の国際機関とも連携を保ちながら、全教会が行う愛のわざにも参与します。神の愛が皆様の歩みとともに広がり、キリストのもたらす正義と平和がわたしたちのうちに実現していきます。そしてすべてのいのちが大切にされる社会の構築に、教会は貢献します。

国際カリタスは“Together We”キャンペーンを世界に呼びかけました。カリタスジャパンも皆様の参加をお待ちしています。すでに取り組んでおられる活動を教えてください。グローバルキャンペーンを推進することは、「ともに歩む教会」の使命に参加することにつながります。ともに祈りましょう。

ケアの文化をともにはぐくむ祈り

“Together We”キャンペーン推進のために

わたしたちの父である神よ、
あなたはすべてを良いものとして造られました。
わたしたちはあなたの似姿とされ、
ともに創造のわざを大切にする使命を受けています。
神よ、ともに暮らす家である地球を
傷つけてしまったわたしたちをあわれんでください。
あなたとともにケアの文化をはぐくむことができますように。
御子イエスの貧しさによって、
創造のたまものを分かち合い、豊かになることができますように。
あなたの愛によって隔たりを乗り越え、
人類が一つの家族になれますように。
神よ、聖霊を遣わしてください。
わたしたちが無関心にならないよう
愛の火によって強めてください。
あなたの愛と正義によって
わたしたちを新たな連帯へと向かわせてください。
いのちが聖なるものであることをすべての人と理解し合い、
抑圧から平和に向かう、新しい生き方へと導かれますように。
あなたの愛といつくしみの道を歩む
わたしたちが、
より良い明日のために、貧しい人々の叫びと地球の叫びを聞き、
ともに今日、行動することができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

報告

教区召命委員会から 召命フェスティバルのミサ献金について

7月25日（火）雲仙メモリアルホールで開催された第10回召命フェスティバルのミサ献金についてご報告いたします。皆様からの献金、総額34万4817円は次の支援のために送金しました。

▼フィリピン・ネグロス島の貧しい地域の子どもたちのために、東京の「ネグロス雙葉会 日本事務局」を通して送金。コロナ禍を経て授業再開となったが、洪水と地滑りに遭う。浸水した教室で授業を再開している。子どもたちには給食がなく、働き口を失っている保護者には経済的な余裕がない。

▼ベトナム南部メコンデルタ地方カマウ省の子どもたちに文房具とサッカーボールを届けるため、東京・サレジオ修道会の武井アントニオ神父様（ベトナム人）に送金。「ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ」の青年たちと共に8月28日～9月11日現地へ派遣。

献金総額を35万円とし、これら二つの支援先には「召命フェスティバル」の様子を伝えて各10万円を送金しました。残金については9月2日現在、支援先を検討中で、実際の子どもたちの顔が見えるところに送金したいと考えています。

支援先から礼状届く

その後、二つの支援先から教区召命委員会あてに礼状が届いた。

「このたびは『召命フェスティバル・子どもミサ献金』からネグロスの子どもたちのための教育支援活動にご寄付を賜り、心より感謝申し上げます。ネグロスではコロナ禍に引き続き、これまでにない物価高騰に貧しい人々の生活は困難極まる状況です。子どもたちが希望を失わず、前を向いて歩めますよう共にお祈りいただけましたら幸いに存じます」（8月21日付受領、ネグロス雙葉会）

「寛大な心に感謝いたします。いただいた寄付は召命促進の活動資金として使わせていただきます」（8月22日付受領、サレジオ修道会 ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ）

新刊良書

★クリスマス たいせつな おくりもの
文＝メアリー・ジョスリン、イラスト＝クリスティーナ・スワーナー、訳＝女子パウロ会

天使が少女マリアに知らせたこと、それは全世界への神さまのおくりものののこと。そのためにマリアもヨセフもベツレヘムへ向かいます。羊飼いたちも博士たちも。まずしい馬小屋でお生まれになった、赤ちゃんのイエスさまが、そのたいせつなおくりものだったのです。女子パウロ会、税別1100円。

ぶどう園

▼企画展『シドッティ神父との出会い―西洋を知った日本人たち』開催中　10月19日㈭まで、大浦天主堂キリシタン博物館。NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト主催、長崎大司教区など共催。入場料は大浦天主堂拝観料に含まれる。

▼教区生涯養成委員会主催のカトリック講座（オンライン受講は随時受け付け）　日程は10／7・21、11／4・18、12／2・16、2024年1／6・20、2／3・17（最終回のみ公開講座）。土曜10時30分～11時30分（公開講座は10時～12時）。テーマ・信仰生活の基礎知識―今さら聞けない教会のこと。聴講1回千円。※小教区への案内をご確認ください。

申し込みフォーム →

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

2024年4月から相続登記の義務化スタート
これまでの相続も対象
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177

HCR あなたの心に 元気と幸せを！
悩み解決のお手伝いをします。
障害者虐待防止・従業員のストレス対処法・職場の人間関係向上・うつ病予防などの研修も承ります。
原口カウンセリングルーム
ヨハネ 原口 芳博
（公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士）
福岡カトリック神学院非常勤講師
元福岡女学院大学人間関係学部学部長
長崎県西彼杵郡長与町まなび野2-11-2
☎ 090-6639-6848
E-mail: haraguchicr@hcr2017.org
営業：月曜日～土曜日 10:00～19:00【完全予約制】
詳しくはホームページをご覧ください。

『旅』の終わり150周年記念
十字架山に集い、殉教祭

9月10日（日）長崎市辻町の十字架山で殉教祭が行われ、150人を超える信者が集まり共に祈った。この殉教祭は例年、浦上小教区をはじめとする長崎中地区の教会が中心となってささげており、『旅』の終わり150周年にあたる今年は長崎教区主催として行われた。ミサの主司式はローマ訪問中の中村倫明大司教に代わり、葛嶋秀信師（教区本部事務局長）が務め、他7人の司祭が共同司式をした。

葛嶋師は説教の冒頭、浦上四番崩れによって全国22カ所に流配された浦上信徒たちの『旅』の話はいろいろな記録から知ることができる、とその内容に言及。人々が流配先で、家族や仲間と一緒に祈りながら十字架の苦しみを乗り越えてきたことについて触れた。また、迫害とは異なる別の〝迫害〟にある現代、「私たちがさまざまなことに対し耐え抜く心をもち、信仰の喜びを自由に表現し宣べ伝えることができるよう、キリストの弟子となって生きる恵みを願いましょう」と結んだ。

教区は2018年『旅』の始まり150周年を、23年『旅』の終わり150周年を記念してきた。今年5月にロザリオ行列とミサ、7月に高校生による演劇、そして今回の十字架山殉教祭を通して、信仰を受け渡されたことへの感謝を新たにした。

聖フランシスコ病院
ホスピス病棟開設25周年をむかえて

病院長　山﨑和文

2023年8月、聖フランシスコ病院のホスピス病棟が開設されて25周年の節目を迎えました。1998年8月のスタートの時点では1病棟14床でした。開設にあたっては、その当時当院の母体であった聖フランシスコ病院修道女会のお世話で、先進地である欧州の複数のホスピス施設へ1週間ほど職員が実際に見学に行って学ぶという機会が与えられたことは大きな幸いでした。

ホスピスの認知度の高まりや、癌（がん）の患者さんの増加、2006年6月に「がん対策基本法」が制定されるなど、癌の患者さんの肉体的、精神的な苦痛を緩和することを目的とする医療への需要は増えつつあるところです。

そういう環境の中で少しずつ増床を重ねて、本年4月からは2病棟44床となり、当院の中でもその比重は高まってきています。希望される方は神父様の訪室も受けることができます。

今後も急性期から緩和医療までを提供する病院として皆様とともに歩んでいきたいと考えております。

同病院でホスピス病棟開設当初から携わって来られた石岡ヒロ子修道女に言葉を寄せていただきました。同病院の広報紙『聖フラニュース』から転載の許可をいただき、本紙に掲載いたします。（カトリック教報）

ホスピス病棟開設25周年

25年、多くの方々がここから旅立ちました。痛みが緩和され、お風呂に入り、ご家族と食事を共にされ、皆に感謝を残し、旅立たれた方々、と同時に、寄り添うことができなかった方、満足のないまま旅立ちを迎えた方も多い。そのような中で、この写真の作品は二十数年前入院された方のお孫さんたちが作成したものです。

おじいちゃんを大切にしてくださったお礼として、小学生の2人の姉妹が、当時勤務していた職員の顔を千代紙で表現。それぞれ特徴をよくつかんでいると、皆、大いに喜びました。師長室の壁に貼られて二十数年経過。この春からご家族の1人がホスピスボランティアとして、週1回ボランティア活動に参加されています。城山教会の方です。

関わられた多くの方々のおかげで25周年を迎えました。感謝・合掌。

シスター石岡ヒロ子

＊写真㊧が石岡修道女です。

パウロ森一弘司教 帰天
（東京大司教区名誉司教）

©カトリック東京大司教区 M.A.F.

9月2日午前3時39分、上部消化管出血のために東京逓信（ていしん）病院で逝去。84歳。

1938年10月12日神奈川県横浜市に生まれる。54年4月3日栄光学園聖堂で受洗。67年3月11日司祭叙階（ローマ）。77年8月関口教会助任、81年4月関口教会主任、84年12月3日東京教区補佐司教に任命、85年2月23日司教叙階。2000年5月13日東京教区補佐司教退任。1985年11月から2021年6月まで真生会館理事長を務めた。

葬儀ミサは9月5日正午から東京カテドラル聖マリア大聖堂（関口教会）で、菊地 功大司教の司式により行われた。

愛にあふれるローマ教皇の知られざる真の姿に迫るドキュメンタリー

映画『旅するローマ教皇』

10月6日から全国順次ロードショー

長崎は TOHO シネマズで上映予定です

2022年/イタリア/83分　配給：ビターズ・エンド

カトリック中央協議会 広報推薦

悲しみが繰り返されることのないように
高校生沖縄平和学習

8月17日（木）～19日（土）、教区平和推進委員会の主催で高校生沖縄平和学習を実施した。コロナ禍で中断し、4年ぶりの開催であった。中村倫明大司教を団長に、5人の高校生、委員長の鍋内正志神父ら5人が引率者として同行した。

地上での戦闘により民間人が多数犠牲となった沖縄戦の激戦地や住民が避難したガマ（洞窟）を訪れ、戦争の実相について学び、今に続く平和への課題の一つである基地問題について、辺野古テント村で地域の方から説明を受けた。

参加した高校生からは「観光地として有名であっても知らないことが多くあった。昔、そして今も苦しんでいる人たちがいることを目の当たりにした」「女学生や子どもたちが戦時下の動員など

で犠牲になった事実にショックを受けた。少しずつ一人ひとりができることが何かを考えていきたい」「私たちが長崎で伝えることができることもあるのでは」といった感想が寄せられた。

「われら皆　和解の器　平和の担い手」（那覇教区の年度目標）、長崎の地でも心を合わせて祈り、学び、行動していきたい。

（教区平和推進委員会）

アタナジア
増田アガタ修道女
（純心聖母会）

8月2日逝去。93歳。

長崎市生まれ。原爆で家族を亡くし、17歳で入会。修練中は終戦後の貧しい中で戦後の片づけ作業に精出し、祈りと働きの喜びを体験した。1950年初誓願、59年終生誓願。初誓願後3年間、長崎にある本会の幼稚園の教諭を務め、その後は長崎・鹿児島川内の純心学園の事務職員として48年の長きにわたり尽力。達筆なことは有名で、生徒たちの書道の講師としても腕前を発揮していた。もの静かな優しい性格で、多くの生徒や保護者・卒業生に慕われた。

2015年に療養のため、ロザリオの聖母修道院に派遣された。20年12月長崎原爆ホーム別館に入所したが、がんのため聖フランシスコ病院ホスピスに入院していた。

〝真実のわたしとは？〟
高校生黙想会

8月11日（金）聖クララの記念日に、「生きる」をテーマに8つの教会から集まった22人の高校生が、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の山口雅稔神父様に同伴していただき、恵みの時を過ごしました。

高校生たちは、山口神父様の穏やかで飾らない語りかけに、よく耳を傾けていました。ルカ福音書の放蕩息子のたとえを読み解きながら、山口神父様が高校生たちに「弟と兄と、どちらが正直に生きていると思う？」と問いかけると、空気が変わりました。

講話の後、「たとえ話の中で誰に共感するか」、そして、「建前のわたし、正直なわたし、さらに真実のわたしとは？」と、和やかな雰囲気の中、皆率直に分かち合いました。

ミサでも、山口神父様は、神様がどれほど一人ひとりを愛しておられるか、いかに信仰が人生の支えとなるかをはっきり伝えてくださり、最後に、みんなと過ごせたことに感謝と言ってくださいました。皆ともに信仰の喜びを新たにした一日でした。

教区青少年委員会　松尾 太

2020年
〝被爆75年から5年間のチャレンジ〟

https://nuclear-free.net/

核なき世界基金

感謝
―香典返し―

長崎カトリック神学院

●竹中由紀子様（桐小教区・若松大浦）

故ヨゼフ竹中武男様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

2024年家庭委員会カレンダー
「ともにあゆむ」発行

2024年家庭委員会カレンダー「ともにあゆむ」が発行されました。信者が典礼暦年を意識しながら1年を過ごすためのより良い方法はないかと考え、このカレンダーを企画してから、7回目の発行を迎えることができました。

今回は、純心聖母会のシスターに絵を描いていただきました。長崎らしさがあふれて典礼暦と信仰生活が身近に感じられるカレンダーになっていると思います。自分の家庭から子や孫の家庭へと、このカレンダーをお届けいただき、信仰伝達・福音宣教の道を親子でともに、教会とともに、さらなる歩みができますようにと願っております。

販売開始は10月1日。販売方法は従来通り各教会での取りまとめを基本とさせていただきます。状況により教会での購入が難しい場合などは、教区家庭委員会へご相談ください。

1冊、税込800円。送料・振込手数料は別途かかります。お問い合わせは（TEL095-842-4450／教区本部事務局）担当・辻まで。

（教区家庭委員会）

ワールドユースデーリスボン大会報告

8/1～8/6

「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」

ルカ1・39

8月1日から6日にかけてワールドユースデー（WYD、世界青年の日）本大会が、ポルトガルの首都リスボンで開催された。日本からの公式巡礼団は約100人。そのうち長崎教区からは青年2人を含む8人が参加した。2019年のパナマ大会に続き4年ぶりに開催され、教皇フランシスコの招きに応えて世界各地から集まった〝若者たちの祭典〟について、参加者に感想を寄せていただいた。

感謝を込めて

7月26日から8月9日にかけてWYDリスボン大会が開かれました。日本からの公式巡礼団としておよそ100人が参加し、長崎からも司祭2人、シスター1人、神学生3人、田平教会から青年2人が参加しました。

長崎教区から参加した皆さん

大会テーマ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」（ルカ1・39）について、フランシスコ教皇は「WYDが神と出会う喜び、兄弟姉妹と出会う喜びを体験できるように」とメッセージをくださいましたが、まさにそのような体験をすることができました。

100万人を超える世界中の青年と出会い、家族として迎えてくれたホームステイの体験をし、プログラムの中で友と語り分かち合いながら、ともに感謝のミサをさげました。それらを通して青年たちはすべての出会いをくださった神様に感謝することができました。この旅は教区内の多くの方からもご支援とお祈りをいただきました。謹んで感謝申し上げます。

9月3日には田平教会で報告会を行い、たくさんの方に喜びと感謝を伝えることができました。

教区青少年委員会　川端 志範（司祭）

★信者として女性として保育士として。自分に与えられた召命は何なのか。分かち合いでは、それぞれの体験に重ねて響いたことを、勇気をもって共有し合い、そうして一人ではなくみんなで実り豊かになっていく信仰の恵みの体験ができた。

ともに笑い、はじめての出会いや景色に感動し、苦しいときは互いに励まし助け合い、支え合ったかけがえのない仲間たち。ポルトガルで出会った数多くの信仰の恩人と友人たち。司教様の言葉「ワールドユースデーはワイルドユースデーだ」と、身をもってそれを体験したこと。一瞬一瞬が信仰の宝物になった。

いただいたご縁に感謝を忘れず、与えられた環境のなかで自分の使命を果たせるよう、「私たちはいつも名前で呼ばれています！」教皇様のこの言葉を受けて、派遣された自分の召命を歩んでいきたい。

田平教会　向井 春菜（青年）

★初めての参加で、とても楽しみで不安もあったが充実した期間を過ごした。特に印象に残ったのは、他国の若者との交流である。

ワールドユースデー中、街中で会うと、お互いにお土産を交換したり、写真を撮ったりして交流した。日本語を勉強しているという人や、アニメの「ナルト」が大好きでナルトの喋り方をする人までいた。私は、英語が話せずコミュニケーションがあまり取れなかったが、それでも楽しく過ごせた。

ワールドユースデーに参加して、日本にいたら出来なかったであろうたくさんの国との交流が一番印象に残った。日本人と他の国の人との共通点や違いを見つけられた。

田平教会　田川 ひかり（青年）

長崎カトリック神学院から信徒の皆様へ

「まだまだあきらめていません」、中村倫明大司教様が司祭・修道者の召命について触れた時に書かれていた言葉です。9月1日現在、長崎カトリック神学院に在籍している神学生は全員で7人（長崎教区5人、大分教区2人）です。

「切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか」（ルカ13・6～9）実りが実るのかどうかわかるのは十数年後であり、現在は司祭養成のあり方の変革期でもあります。でも「あきらめません」。信徒の皆様がずっと支えてくださり、祈り続けてくださることを神学校と神学生は肌でずっと感じています。まだまだ実りがあるはずです。

どうぞ信徒の皆様、「この子は神父様になったらいいんじゃないか」と思うような子どもや青年がいましたら「無責任」などと思わず、お声掛けをしていただけたらと思います。直接に声を掛けるのはと思われるのであれば、どうぞ主任神父様に耳打ちしてください。

今年も小神学校で10月28日（土）～29日（日）に一泊体験入学を実施します。どこか他人事にしてしまうのではなく、ため息をつくだけでもなく、声を掛け合い、祈り合いつつ、司祭を生み育てていただけたらと思います。どうぞ今後ともお祈りとご支援をお願いいたします。

長崎カトリック神学院　院長　山口 竜太郎

みことばにふれて

200回以上にわたり多くの方々に執筆いただきました連載「みことばにふれて」は、前号9月号をもち、いったん終了しました。ご愛読に感謝申し上げます。

今後も皆様と「よい便り」を分かち合う連載を考えております。どうぞよろしくお願いいたします。（編集部）

台風で中止になったフランキッズサマーキャンプ

コンベンツアル聖フランシスコ修道会　李 信衡 神父（聖コルベ志願院 院長）

今年8月のフランキッズサマーキャンプ（フランキッズとは、フランシスコの子どもたちという意味）は、4年ぶりの開催のはずでした。中止か、開催かを決めないといけない日までどれだけ台風の動きを注視し一喜一憂したか分かりません。残念ながら、開催日の2日前に中止せざるを得ませんでした。

修道会主催のキャンプのよい点は、教区を超えて日本全国からの子どもたちが参加することです。今回開催予定地だった上五島を訪れることによって、信仰によって建てられた長崎の教会と信徒たちの生活を学び、目撃して、日本の教会の原点を確認する、さらに一緒に祈り、遊ぶことによって、一人ではなく、仲間と共に歩み、教会の中で成長し、教会から支えられ、支える人になれば、という思いがこのキャンプに秘められています。

来年は、長崎市内を中心にしたフランキッズサマーキャンプを予定しています。

子どもたちの交流会や黙想会各地区で開催

佐世保 ― 交流会

8月6日（日）佐世保地区子ども交流会が相浦総合グラウンド体育館で行われた。

これまではドッジボール大会が行われてきたが、子どもの数減少のためチーム編成が難しい小教区が増えてきたことを踏まえ、今年から地区内の小学生の信仰養成と交流を目的として開催。午前10時、みことばの祭儀から始め、その後、参加教会の子どもたちの混合チームを作り、12種目のゲームすべてをローテーションして回る形式で行った。

前晩の準備から、地区評議会および地区諸教会からのボランティアの方々に支えられ、約130人の子どもたちが交流を深め、午後2時過ぎに散会した。（写真は、ゲームの一つ、長縄飛びを楽しむ子どもたち）

上五島 ― ドッジボール大会

8月11日（金）新魚目総合体育館で子どもドッジボール大会が行われた。コロナ禍を経て4年ぶりの開催となった今回、対象の小学1年生から6年生まで合わせて57人が集まり、親や祖父母、地区のシスターなど大勢の応援も集まった。

これまでは、それぞれの小教区で1～2チームを編成することができたが、今回は複数小教区編成のチームが大勢を占める全4チームでの総当たり戦となった。小教区の枠を超えての練習や作戦、チームワーク、応援など今までとは一味違う交わりの大会となった。

優勝 青砂ヶ浦・鯛之浦連合チーム、準優勝 大曽・丸尾連合チーム、3位 浜串・真手ノ浦・土井ノ浦連合チーム、4位 桐教会チーム。

上五島 ― 合同黙想会

8月28日（月）コロナ禍を経て4年ぶりに、青方教会聖堂下のカトリックセンターで上五島地区合同の小学生黙想会が行われた。11小教区から小学生が60人集まり、ともに祈り、ともに作業を行った。

朝の祈りの後、「長崎にはどのような教会があるのか、また教会にはどのような特徴があるのか」、さまざまな教会の外観や内観の写真を見ながら、子どもたちに問題が出された。

午後からのミサの説教では、地区長の中濱繁喜師が「教会についての話があったが、その教会があるのは先祖の信仰があったからこそであり、みんなでその信仰を大切にしていこう」と語った。

CALIS Catholic Life Service

カリス通信　10月号

社会福祉法人に関わる保険のご紹介

社会福祉法人の事業は、児童福祉や老人福祉等多岐にわたるため、様々なリスクがあります。あらゆるリスクに対応する保険をご紹介します。

＜役員賠償責任保険＞
職員を含む第三者および法人から役員個人が提訴された場合において、役員個人が責任を負った場合の損害賠償金・争訟費用等を補償します。資産運用に失敗して損害賠償を提起された場合等に対応します。

＜介護サービス事業者賠償責任保険＞
介護サービスは、介護施設の欠陥、入浴介助時のケガ、利用者の行方不明に伴う経済損失等様々なリスクが存在します。事業の遂行に伴う各種対人・対物事故等を包括的に補償します。

＜サイバーリスク保険＞
個人情報の漏えいが発生した場合の「個人情報保護委員会への報告」「被害者本人への通知」が義務化され、多くの個人情報を取り扱う社会福祉法人にとって情報管理は重要な課題です。情報漏えいにより顧客から訴訟を受けた場合などの損害賠償、不正アクセス等に起因する「不正アクセス対応費用」、再発防止費用等を補償します。

＜医師賠償責任保険＞
医師の医療行為ミスにより生じた患者の身体障害についての損害賠償責任を補償します。

ご不明点や詳細につきましては、カリスまでお問い合わせください。

私たちが、お守りします。　三條貴英　毛利玲子　山本泰彦　服部秀昭　川口 薫神父（顧問）

※本ご案内は「役員賠償責任保険」「介護サービス事業者賠償責任保険」「サイバーリスク保険」「医師賠償責任保険」の概要をご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をご確認ください。

カトリック共済システム　有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　連絡先 0120-77-0033

カトリック共済システム　検索　23TC-003277（2023年8月作成）

引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください